

「ひとごと」から「わがごとく」へ

『ひとごと』から『わがごとく』へ
『社会』つながり、『広がり』を求めて

愛南町「人権ふおーらむ」
主催 愛南町人権対策協議会愛南支部 共催 愛南町 愛南町教育委員会 愛南町人権教育協議会

御荘文化センターで、町内外から約450名が参加して「人権ふおーらむ」が開催されました。コーディネーターに森口健司先生（徳島県北島中学校教諭）、パネリストに解放未来塾塾生、岩井正一さん（ありんこくらぶ事務局）、長野敏宏さん（障害者の社会参加を進める副会長）らが、それぞれに活動の状況を語り、差別や偏見のない、誰もが自分らしく輝ける地域社会に向けた取り組みについて活発な討議が行われました。



2/1

主な討議からの抜粋



コーディネーターの森口健司さんは「そこに差別があるのに、ないことにされてしまう。いじめについても同様で、そんな現実があります。本当の思いや願いが出し合える関係でありたい、自分をいきいきと表現できる関係でありたい、そんな子どもたちの巣立ちを願いとして、解放未来塾が生れました。子どもたちは、人権に関する学習の中で「差別に負けないよう頑張っていくます」といってくれます。悲しいことですが、社会の中には「あそこが同和地区よ」と言わしていく周りの空気があり、同和地区と地区外との交流が進んでいません。それは、全ての人権課題においても同様のことだと感じています。私の思う人権問題への学びの本質は、自分をしっかりと語っていくこと。そこに、人と人との確かなつながりが芽生え、そのつながりの中に、人間へのいとおしさや尊敬、信

頼が生れてきます。そんな語り合いの場を創ることが、あらゆる人の幸せ、人権問題の解決の糸口につながっていくと信じています」と熱く語られました。

解放未来塾を代表して話された塾生からは「私たち解放未来塾では、がんばらない、あきらめない、夢を捨てない」をモットーに、同和問題をはじめとする人権問題解決をめざし、小学校5年生から高校3年生の約25名の塾生、一人一人が具体的な目標を立てて活動しています。私は、同和地区出身だということを小学校6年生の時に、初めて親から聞きましたが、解放未来塾での様々な学習や仲間との出会いのお陰で、差別に立ち向かう勇氣と知識を身につけることができました」と、多くの学習体験を通じて感じた差別に対する憤り等を本音で話してくれました。

「ありんこくらぶ」事務局の岩井正一さんからは「平成9年度に発足



した「ありんこくらぶ」の目的は、会員相互の交流、障害児の存在を社会に認知してもらい、障害があっても共に生きることができると町の実現をめざすことにあります。現在は、障害のある子どもを持つ17家族と支援者40名で、様々な啓発活動を行っています。私自身、障害のあるわが子を隠すことなく、ありのままの姿を周囲の人に見てもらいたいと思っています。

「呼吸する、食べる、排泄する」といった生きる上での当然の営みもままならない重症心身障害の子どもが存在が、多くの方との素晴らしい出会いを創ってくれました。命を燃やし、懸命に生きる息子の存在が、障害児に対する私の考え方を変えてくれました。これからも、人とのつながりを広めついでいくことを目標にしていきます」と、10年間の「ありんこくらぶ」の歩みと、ご自身の体験を話されました。

最後に、精神科医師でもあり、長年、障害者の社会参加を支援されてい



る長野敏宏さんは『病とともに、帰るべき家庭を、生きるべき場を、あるいは、続くべき人生を見失った人たちがいる。それらの人たちの共同生活の場として、平山寮が作られました。全国で7番目の取組で、年間2,000名の方が訪れてくれます。現在、何らかの障害のある方が、40名に1名いるといわれています。皆さんは、これほど多くの障害者の存在を身近な生活の中で感じているでしょうか。この現状を変えたいという思いから、障害のあるなしに関わらず、楽しいことにつながる関係を築こうと、炭焼き等の活動に取組んできました。その中で「NPO法人ハートinハート」という組織が生まれてきました。人を肩書きで判断したりせず、お互いを先入観なしで認め合い、伸ばし合えるような関係を築きたいと思っています。愛南町でも、地場産業の低迷、高齢化等、厳しい現実がありますが、自分には関係ないという「ひとごと」を、自らの「わがごと」として、町ぐるみで問題解決に取り組んでいく、そんな関係を町中に広めていきたいと感じています」と、障害者の社会参加の促進について話されました。

会場からの意見

○学校の授業にはない、真剣な語り合いに驚きました。
○私たち大人が、自分には関係のな

いことに対して、自分のこととして関わりを持つ勇気を持つことが大切だと感じました。
○自分を素直に表現する姿は、美しいと思いました。
○堂々と発表する子どもたちに負けないう、私たち大人が頑張っていきたいと感じました。
アンケート結果から
○毎回、子どもたちの変わっていく姿が見られ、感動するばかりですが、私も行動をしていきたいと感じました。

皆さん「ありんこくらぶ」って知っていますか？

○外見で人を判断していた自分を恥ずかしく思いました。また、話し合っこそ、人とのつながりが生まれ、人との絆が生れると感じました。
○解放未来塾の塾長さんは、高校1年生の頃からキラキラしていました。彼女のように、キラキラ光り輝く子どもたちが増えることを願っています。私も、輝いていきたいと思っています。
○心が洗われるような思いでいっぱいです。



「ありんこくらぶ」は、障害のある子どもを持つ親とその支援者の集まりです。名前の由来通り、ありのままの姿でコツコツと人の輪をつなげ、その関係をつおいていく活動をされています。毎月1回の定例会では、様々な体験学習や専門的な講師を招いての学習会、年1回のペーすで開催されている「ありんこくらぶの催し」また、会員相互の意見交換等、工夫を凝らした活動を地道に続けられています。会長の宮崎和友さんは「お互いが一人一人の違いを認め合い、安らかな気持ちを共有したい。また、障害のある子どもたちの懸命に生きる姿を伝えることで、誰もが安心して暮らせる町をめざしていきたい」と、熱く語られました。
私も、同会に関わりながら「誰もが安心して自分らしく生きていける地域社会」を築くため「今、何が必要で、大切なのか」を考えていきたいと思っています。(文山口眞理子編集委員)